

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第9回 理事会 議事録

日時：令和4年9月12日（月）14:00-15:20

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、
竹下 克志、筑田 博隆、田中 信弘、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、
西田 康太郎、根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、webで行われた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

2. 脊髄モニタリング委員会：認定医審査の件

今年度の脊髄モニタリング認定医審査の結果、53名が合格、1名は審査資料の再提出ができず不合格となった。一同承認した。

3. JSR 編集委員会：抄録アプリについて、マイス・ワンとの契約の件

これまで学術集会運営事務局をコングレに委託していたため、子会社であるマイス・ワンの抄録アプリを使用できていた。来年度より学術集会運営事務局がJCSに替わるにあたり、マイス・ワンと個別契約を交わすこととなり、契約書を委員会で再度確認した。単年度契約で手続きを進めることが報告され、一同検討の結果承認した。

4. 英文誌編集委員会：委員追加の件

『SSRR』が来年IFを獲得するにあたり、被引用件数促進等のため医療SNSを活用した情報発信を検討している。広報業務担当として、その分野に精通している大谷隼一氏(日本赤十字社医療センター)を委員に追加したい。一同検討の結果承認した。

5. 診断評価等基準委員会：委員追加の件

日本側嚙症学会がASD10のプロジェクトを進めているため、当学会は本プロジェクトには参加を見合わ

せ、別角度からグローバルに視点を広げた新規のASDに関する評価プロジェクトを行っていく。新規プロジェクトを開始するにあたり、日本側彎症学会の代表として渡辺慶評議員、高橋真治評議員を当委員会委員に追加したい。一同検討の結果承認した。

小田理事が、2学会合同で行う場合、どちらが主体となり倫理審査を進めるのか確認を求め、筑田理事が、今回の新規プロジェクトでは側彎症学会の経験者2名に当学会の委員会に入ってもらうため、倫理審査は当学会で行うのが妥当と考えると発言した。

6. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：8月入退会審査

8月の入退会について全員を承認した。

継続審議中の除名勧告者について今後の手続きと日程に関する資料が提示され、10月に入ったら内容証明郵便で「弁明機会を与える文書」を送付することが確認された。

7. 社会保険等システム検討委員会

1) 脳脊髄液減少症に適應の硬膜外自家血注入について主学会を移管する件

脳脊髄液減少症に対する硬膜外自家血注入について、診療報酬改定の要望は主学会から申請をする必要があるが、現在の主学会は JSSR である。現状を鑑み、日整会や日本臨床整形外科学会でも主学会の移管について異論はなく、社保委員会でも移管は妥当との認識であった。一同検討の結果、主学会を日本臨床脳神経外科学会に移管することを承認した。

2) 学会主導研究セッションの委員会意向調査結果

2022年に引き続き、2023年第52回学術集会(札幌)でも学会主導研究セッションの実施を検討中で、現在12演題の候補が挙がっている。学術集会プログラムの兼ね合いもあるため候補について審議した。その結果、現在提案されているすべての案を大鳥理事から第52回学術集会の種市会長に提案し、調整が必要であれば優先順位を検討することとなった。

8. NL バナー広告募集の件

NLのバナー広告趣意書について承認した。役員へ趣意書のデータを事務局より送付するので、声掛け可能な企業等へ各自で依頼する。

9. その他

・金村理事より、LIF調査で5年間の合併症を解析した結果を『SSRR』へ投稿予定であり、そのため英文校正費用が発生したとして見積書が示された。一同検討の結果承認した。

審議・報告事項

1. 専門医制度委員会報告

・専門研修制度整備基準案、脊椎脊髄外科専門医研修記録(案)はNSJとの間で合意が得られたため、日本専門医機構事務局に8月30日付で提出した。

・第16回専門医試験(2022年11月18日)について、現時点での受験者数はNSJ12名、JSSR61名(計73名)が受験予定。

JSSRの指導医1679名中224名がまだ未受験であり、対応について委員会で検討していく。

2. 国際委員会報告

- ・SPINE20(バリ)に現地出席した玉井委員と伊東理事のフライト費用負担について、燃料費の高騰や減便の影響もあり若干割高になっているとして、実費額が示された。一同検討の結果承認した。
- ・来年開催予定のAPSS2023から、JSSRもしくは個人宛に正式な指定演者の依頼がされる予定である。

3. 新技術評価検証委員会報告

セメント注入型スクリューの使用基準について、UIVとLIVに限定されていた使用部位の制限を外した。ただし症例ごとの使用可能本数は今まで通りである。

1椎間の固定術での使用については、現時点では検討中である。

4. データベース委員会報告

- ・データクレンジング作業が終了し、400施設にフィードバックをメールで行った。主な内容は脊髄モニタリングの結果と麻痺の齟齬等である。
- ・今年のデータベース登録状況について報告され、対前年比では約86%。年間14万件を目指す現在の登録ペースでは12万件程度になる見込みである。

5. JSR編集委員会報告

- ・現在の投稿状況は、昨年と比較して少ない。依頼論文についても昨年36編に対し現状4編のため、学術集会時の優秀論文TOP200に対して投稿依頼のリマインドをしていく。
- ・査読システムについて、現在当学会のみ杏林舎のオンライン査読システムを用いているが、JSR関連7学会は独自に査読を行っており、一部の学会からオンライン査読システムを使用できないかと意見があった。現在関連7学会から各125万円の分担金を集金しているが、他学会でもオンライン査読システムを使うことになった場合には、分担金について各学会から見直しを希望する意見が出る可能性が予想されるため事前に情報共有がされた。

6. 第31回日本医学会総会 分科会登録について

4年に1度開催される日本医学会総会について、各分科会に対し参加登録の案内が届いていることについて紹介され、前回は日整会で737名が登録したが、JSSRは41名であった。登録時5つまで所属を登録できるため、登録時はJSSRも所属としてほしい。

7. 広報委員会報告

- 1) ホームページ更新について、バナー広告の掲載位置、HPトップの改定に関してHP管理会社に依頼中である。

2) 2023年4月開催予定の第31回日本医学会総会から、日本医学会分科会141学会全てのパネル展示を東京駅にて行いたいとして、作成依頼があった。広報委員会で審議のうえ、骨子案を作成して関連委員会に依頼を行った。各委員会から提出された資料を確認し、広報委員会で体裁等整えて理事会での確認を依頼予定である。

8. 指導医制度委員会報告

2022年度の指導医新規申請、継続申請について受付状況、今後の審査の予定を報告した。継続申請状況については、継続284名、名誉指導医7名、猶予審査7名である。9月から受付を開始した新規申請は、1ヶ月で110名程度の申請を見込んでいる。

また、これまで郵送を要していた「医療安全・感染防止対策・倫理等に関する研修」の単位証明証は、2017年以降分から会員マイページに反映しているため、2023年度から原本の郵送は不要にする。

9. その他の委員会報告

・プロジェクト委員会

6つのプロジェクト研究は順調に症例登録が伸びており、そのうち2つが十分検証可能な症例数となり、エントリーを終了した。

なお、「頸肩腕症に対する薬物治療の費用対効果」の症例登録に対してはインセンティブ(1症例1万円)を支払うことが決まっていたことを引き継いでいるが、前年度での決定であったことから再確認があり、土井田理事から予算を確保しており問題ないとの回答がなされた。

・COI委員会

COI自己申告書は対象者全員分が集まったため委員会で審査を開始した。完了後、理事会へどの程度の報告を要するか意見が求められた。

審議の結果日整会の動きに合わせていくこととなり、波呂理事長から小田理事に日整会におけるCOIの取り扱いについて確認するよう依頼がなされた。

10. その他

・川口理事から、WSSSの発生頻度等に関するアンケート調査の論文を『JSR』へ投稿したと報告された。

・事務局より、来年の日整会学術集会に当学会から提案をしているシンポジウム案について第96回日整会運営事務局に進捗状況を確認し、現在3題が採択されていることが報告された。

令和4年9月12日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三